

研究ノート

1970年代前半における韓国の対ソ接近策と韓ソ関係

高 一*

- I はじめに
- II 第三国での外交官接触
- III 友好国を通じた関係改善の意思表示
- IV おわりに

I はじめに

1990年9月、「北方外交」を推進した盧泰愚（ノ・テウ）大統領の在任時、韓国はソ連との国交正常化を果たした。1973年6月23日、韓国の朴正熙（パク・チョンヒ）大統領は「平和統一外交政策に関する特別声明（6.23宣言）¹⁾」を発表し、南北朝鮮の国連加盟に反対しないと述べるとともに、「全ての国家に門戸を開放する」と述べて、共産圏諸国との関係改善に努める姿勢を明らかにしていた²⁾。このような70年代初頭以来の韓国政府の対ソ関係正常化の希望は、1990年に現実化したのである。

70年代前半、韓国政府はなぜ共産圏諸国との関係改善の意思を明らかにしたのだろうか。韓国政府による共産圏諸国との関係改善の意思表示に関しては、倉

『一橋法学』（一橋大学大学院法学研究科）第6巻第2号2007年7月 ISSN 1347 - 0388

※ 一橋大学法学研究科講師（ジュニア・フェロー）

- 1) この特別声明は、韓国では「6.23宣言」、「6.23声明」、「平和統一外交宣言」などと称されている。
- 2) 6.23宣言において示された平和統一外交政策の7項目は次の通りであった。①祖国の平和統一成就のためにすべての努力を継続する。②南北は相互に内政干渉・侵略しない。③南北対話の成果のために誠実と忍耐をもって努力する。④緊張緩和のためであれば北朝鮮の国際機構参与に反対せず。⑤統一の障害にならないのであれば、南北国連加盟に反対せず。また大韓民国代表が参席する国連総会における「韓国問題」討議に北朝鮮側がともに招請されることに反対しない。⑥互恵平等の原則の下、全ての国家に門戸開放する。⑦平和善隣を基調に友邦との既存の紐帯を強固にする。『東亞日報』1973年6月23日。

田秀也の研究がある³⁾。倉田によれば、朴正熙は、ニクソン (Richard M. Nixon) 政権の在韓米軍削減計画に代表されるアメリカの対韓コミットメントの逡巡や中国の国連加盟の気運という状況に直面したが、大国間の緊張緩和は朝鮮半島のそれに連動しないという対外認識を有していた。すなわちアメリカがアジア政策において、対中国「封じ込め」を徐々に解除していくことは、韓国からすれば北朝鮮による脅威の度を相対的に増大させるという認識であった。倉田は、この大国間の緊張緩和の「逆機能」を解消するため、韓国政府は北朝鮮との対話による相互関係の調整を試みていたが、そのためには北朝鮮に対する中ソ両国の支援を逡巡させる必要があったと指摘する⁴⁾。倉田の研究は、韓国政府が共産圏諸国との関係改善を望み、6.23宣言を発表するに至った国際政治的背景に関する先駆的研究であるといえよう。しかしながら倉田の研究では、その発表当時における史的制約もあり、韓国政府による共産圏諸国への接近過程の実際については分析されていない。したがって本稿では、韓国政府の対ソ接近過程を分析することで、70年代前半における韓ソ関係の特徴について明らかにすることを試みる⁵⁾。分析に際しては、近年公開された韓国外交史料館所蔵の韓国外交文書を主に利用

- 3) 倉田秀也「韓国『北方外交』の萌芽—朴正熙『平和統一外交宣言』の諸相」『国際政治』第92号、日本国際政治学会、1989年。
- 4) このような倉田の指摘は、韓国外交文書から確認できる金溶植 (キム・ヨンシク) 外務部長官の発言とも合致する。金溶植は、73年7月に韓国を訪れたアメリカのロジャーズ (William P. Rogers) 国務長官に、韓国が次の二つの観点から、6.23宣言を通じて共産圏諸国との関係改善を図ることを明らかにした。第一に、中国、ソ連などの諸国と関係改善が図られるのであれば、これら諸国が北朝鮮に影響力を行使し、北朝鮮が再度武力行動をとらない方向にけん制することができるであろうという安全保障政策上の理由である。第二に、東欧諸国を含む共産国および各国との関係改善によって経済進出と通産振興を成し遂げようという経済的理由であった。「外務部長官発大統領宛報告」1973.7.18、韓国外交文書 (韓国外交史料館所蔵) フィルム番号C-0068 ファイル番号6『Rogers, William P. 米国務長官訪韓, 1973.7.18-20』フレーム番号77。
- 5) 本稿が韓国政府による対ソ接近に注目するのは、韓国政府が中国や東欧諸国よりもソ連との関係改善を優先していたためである。韓国政府は中国との接触には失敗していた。「対共産圏関係改善問題」、韓国外交文書フィルム番号E-0011 ファイル番号4『対ソ連及び東欧圏関係改善案, 1973』フレーム番号21-23。また韓国政府は、ソ連の対韓関係が他の東欧諸国の対韓政策に影響を与えると認識していた。韓国外務部では、ソ連とユーゴスラビアを除く東欧諸国は、ソ連の対韓政策を観察しながら韓国との接触に躊躇していると捉えていた。「対ソ及び対東欧関係」、1973.9.20、韓国外交文書フィルム番号E-0011 ファイル番号5『東欧圏とのContact Point 開設, 1973』フレーム番号20。

した。

II 第三国での外交官接触

韓国政府は、71年夏以降、北朝鮮との対話をすすめながら、共産圏諸国、特にソ連との関係改善への糸口を探っていた。韓国外務部では、それまで韓国に対して一方的に敵対的な態度を取り北朝鮮の立場を支持してきたソ連が、71年末からは韓国に対して極力敵対的な刺激は避けようと努力している徴候をみせはじめ、韓国に対して柔軟姿勢をとっていると認識していた⁶⁾。このようなソ連の対韓態度に対する認識に基づくかのように、韓国政府は71年の終盤にソ連との接触に着手し始めた。71年10月の時点で、韓国中央情報部の李厚洛（イ・フラク）部長が東京でソ連のトロヤノフスキー（Oleg A. Toroyanovsky）大使と接触したという情報が日本の外務省から在日アメリカ大使館にもたらされていたが⁷⁾、このような情報を追認するかのように、李厚洛はハビブ（Philip Habib）駐韓アメリカ大使との会話のなかで、韓国政府がソ連や中国との接触を始めていると述べた⁸⁾。北朝鮮が日本との関係改善を進展させようとしていた時期、韓国政府もソ連との接点を探していたのである。

71年12月、韓国政府は第三国でのソ連外交官との接触に取り組んだ。韓国外務部はソ連との関係改善を目的として、カナダ、イタリア、スウェーデン駐在の韓国大使に対ソ接触を指示したのである⁹⁾。このような韓国側の対ソ接近の試みは、73年に入ってから、その成果が現れつつあった。なかでもイタリア、スウェーデン

6) 「対共産圏関係改善方案」、1973.11.29、韓国外交文書フィルム番号E-0011ファイル番号4『対ソ連及び東欧圏関係改善方案, 1973』フレーム番号77。

7) Telegram from the US Embassy in Japan to the Secretary of State, 10/15/1971, 韓国国会図書館所蔵海外所在韓国関連資料、Confidential U.S. State Department Central Foreign Policy Files: Korea, 1970-1973, Political affairs and relations: Korea-USSR territorial waters, 請求記号：MF007611。

8) Telegram from the US Embassy in Korea to the Secretary of State, 10/29/1971, 韓国国会図書館所蔵海外所在韓国関連資料、Confidential U.S. State Department Central Foreign Policy Files: Korea, 1970-1973, Political affairs and relations: Korea-USSR territorial waters, 請求記号：MF007611。

9) 「対共産圏関係改善問題」、韓国外交文書フィルム番号E-0011ファイル番号4『対ソ連及び東欧圏関係改善方案, 1973』フレーム番号21。

の韓国大使館職員が、駐在国におけるソ連大使館職員との間で定期的に接触していたことが史料から窺える。

イタリアでは在イタリア韓国大使館のアン・ヨンチョル参事官が対ソ窓口となっていた。73年3月27日、アン・ヨンチョルの自宅で在イタリアソ連大使館のピシュギン（Oleg Piciughin）文政官夫妻を招いての晩餐がもたれた。これは、2月27日にアン・ヨンチョルが、ピシュギンにソ連映画鑑賞会に招かれたことに対する答礼の晩餐であった¹⁰⁾。この晩餐の席でアン・ヨンチョルら韓国側は、韓ソ関係の改善を訴えた¹¹⁾。韓国側は、「まず経済、文化、スポーツ、言論などの非政治的な分野が、関係改善に良い可能性を示すものと考えられ、このような関係は究極的には政治外交レベルにまで発展することができるだろう」と述べたうえで、スポーツ行事を利用した関係の拡大に関心を示した¹²⁾。具体的には8月にモスクワでの開催が予定されていたユニバーシアード大会を挙げて、この大会を契機とした関係改善を促すのであった。韓国側は、中国がアメリカとの関係改善を試みた際、ピンポン選手を招待したことに言及しながら、モスクワ・ユニバーシアード大会がもう一つの「ピンポン」ケースとなることに対する期待感を示唆したのである¹³⁾。

さらに韓国側は、「我々はソ連の言論人が韓国を訪問し、韓国の実情を直接目で見て、それをソ連人に伝えてくれることを望んでいる」として、ソ連メディアの訪韓も求めた。そして、ソ連のメディアが公開的に韓国を訪問することを望まないのであれば、韓国側でもソ連側の要求に沿う方向で協力する用意があることを明らかにした¹⁴⁾。

10) アン・ヨンチョルはこの映画鑑賞会に出席し、同会のレセプションでピシュギンと会話する機会を持った。「駐伊大使発外務部長官宛電文」、1973.2.28、韓国外交文書フィルム番号C-0062ファイル番号2『韓・ソ連関係改善のための外交官接触、1973』フレーム番号38。

11) 晩餐には、在伊韓国大使館のイム・ウォンソク参事官も参席していた。「韓・ソ参事官及び文政官の間の対話」、1973.3.27、韓国外交文書フィルム番号C-0062ファイル番号2『韓・ソ連関係改善のための外交官接触、1973』フレーム番号43。

12) 「駐伊大使発外務部長官宛電文」、1973.3.30、韓国外交文書フィルム番号C-0062ファイル番号2『韓・ソ連関係改善のための外交官接触、1973』フレーム番号48-49。

13) 同上。

14) 同上。

最後に、アン・ヨン Cholらは、韓ソ間での会合で多くの対話をする事ができたことを意味あることだとして、このような対話が大使級の対話にまで発展することへの期待感を表した¹⁵⁾。

他方スウェーデンでは、在スウェーデン韓国大使館のイ・チャンス参事官が対ソ窓口となっていた。イ・チャンスとソ連大使館のスタッケビッチ (Nikolai Statskevich) 参事官との関係が維持されていたのである¹⁶⁾。やはり韓国大使館は、韓国とソ連との間での経済関係を進展させることをソ連側に要求していた。韓国大使館はソ連商工会議所の会長氏名と住所の詳細についての情報提供をスタッケビッチ側に依頼していた。この依頼を受けたスタッケビッチは、韓ソ関係を段階的に発展させていこうとの発言を繰り返しながらも、ソ連商工会議所の会長氏名と住所を韓国側に知らせ、「ソ連通産省または商工会議所」に直接書信を送ることを促したのである¹⁷⁾。このようなスタッケビッチとの接触を経て、韓国外務部は大韓貿易振興公社社長の書簡をソ連商工会議所会頭に発送することになった¹⁸⁾。

さらにスウェーデンの韓国大使館では、韓国外交官のソ連訪問を推進した。3月16日、スタッケビッチの招きによる午餐の席で、イ・チャンスは、スタッケビッチから韓国帰国前のソ連観光を勧められた¹⁹⁾。スタッケビッチは、4月10日

-
- 15) 同上。在伊韓国大使館では、ピシュギンを、韓国外交官への接触要員だと位置付け、韓国大使館職員に対する態度はとても正直で大きく分け隔てが無いと評価していた。「駐伊大使発外務部長官宛電文」、1973.3.30、韓国外交文書フィルム番号C-0062ファイル番号2『韓・ソ連関係改善のための外交官接触, 1973』フレーム番号57。
- 16) 「外務部長官発大統領宛報告」、1973.3.15、韓国外交文書フィルム番号C-0062ファイル番号3『Statskevich, Nikolai 駐スウェーデンソ連参事官を通じた韓・ソ連関係改善, 1973』フレーム番号14。
- 17) 「駐スウェーデン大使発外務部長官宛電文」、1973.2.21、韓国外交文書フィルム番号C-0062ファイル番号3『Statskevich, Nikolai 駐スウェーデンソ連参事官を通じた韓・ソ連関係改善, 1973』フレーム番号5-6。
- 18) 「外務部長官発大統領宛報告」、1973.3.15、韓国外交文書フィルム番号C-0062ファイル番号3『Statskevich, Nikolai 駐スウェーデンソ連参事官を通じた韓・ソ連関係改善, 1973』フレーム番号14-15。
- 19) 「駐スウェーデン大使発外務部長官宛電文」、1973.3.19、韓国外交文書フィルム番号C-0062ファイル番号3『Statskevich, Nikolai 駐スウェーデンソ連参事官を通じた韓・ソ連関係改善, 1973』フレーム番号24-25。

の午餐の席で、イ・チャンスは観光ビザによるソ連訪問になるだろうと述べた。さらに、韓ソ間に国交がないため政府機関との接触を周旋できないが、商工会議所訪問は周旋できるとした。そして身の安全についてはスタツケビッチ自身が保障することを明らかにした²⁰⁾。スウェーデン駐在韓国大使は、イ・チャンスのソ連旅行計画について、「韓国の外交官がソ連当局の保障の下にソ連旅行をするという事実自体と韓国のソ連に対する好転したムードの表れ」として、その意義があると評価していた²¹⁾。

4月19日にはイ・チャンスへのソ連観光ビザが発給され、インツェリストから航空券とホテル予約の確認を受けた。イ・チャンスは4月24日にストックホルムを出発し、28日に戻る予定であった²²⁾。韓国外務部では、イ・チャンスの旅行目的は観光であるが、観察任務の遂行に万全を期し、スタツケビッチが周旋する商工会議所を訪問するほか、言論・観光・経済関係者などとの人的交流、文化交流やユニバーシアード参加問題などについて意見を交換するよう指示していた²³⁾。

20) 「駐スウェーデン大使発外務部長官宛電文」、1973.4.10、韓国外交文書フィルム番号 C-0062 ファイル番号3 『Statskevich, Nikolai 駐スウェーデンソ連参事官を通じた韓・ソ連関係改善, 1973』フレーム番号28-29。

21) 「駐スウェーデン大使発外務部長官宛電文」、1973.4.11、韓国外交文書フィルム番号 C-0062 ファイル番号3 『Statskevich, Nikolai 駐スウェーデンソ連参事官を通じた韓・ソ連関係改善, 1973』フレーム番号30。

22) 「駐スウェーデン大使代理発外務部長官宛電文」、1973.4.19、韓国外交文書フィルム番号 C-0062 ファイル番号3 『Statskevich, Nikolai 駐スウェーデンソ連参事官を通じた韓・ソ連関係改善, 1973』フレーム番号49。

23) 「外務部長官発駐スウェーデン大使代理宛電文」、1973.4.19、韓国外交文書フィルム番号 C-0062 ファイル番号3 『Statskevich, Nikolai 駐スウェーデンソ連参事官を通じた韓・ソ連関係改善, 1973』フレーム番号44。韓国側は、イ・チャンスのソ連旅行計画について、米英側と連絡をとりながら推進した。金溶植外務部長官は、イ・チャンスがソ連に招待され、韓国政府としてはそれを受け入れるよう指示していることをハビブ駐韓アメリカ大使に伝えていた。Telegram from the US Embassy in Korea to the Secretary of State, 5/4/1973, 韓国国会図書館所蔵海外所在韓国関連資料、Confidential U.S. State Department Central Foreign Policy Files: Korea, 1970-1973, Political affairs and relations: visits, meetings, 1973, 請求記号: MF007613。また、尹錫憲(ユン・ソクホン)外務次官は、ピーターセン(Jeffrey Petersen)駐韓イギリス大使に、イ・チャンスのモスクワ旅行においてトラブルが発生した場合の在モスクワイギリス大使館のサポートを要請した。さらに同様の要請をアメリカ側にもしていることを伝えた。Petersen to Wilford, South Korean contact with the Soviet Union, 25 April 1973, FCO21/1190, The National Archives, Kew, UK。

しかしながら、イ・チャンスのソ連観光ビザは翌20日に取り消された。20日、イ・チャンスは、スタツケビッチ側から電話連絡を受けた。連絡の内容は、既に発給されたビザを取り消せとのソ連本国政府からの訓令により、計画された旅行が不可能になったというものであった。この件に関してイ・チャンスがスタツケビッチに取り消し理由を問いただしたところ、スタツケビッチは「両国間の政治的外交の関係が無いため、韓国外交官に入国を許可することはできないとの決定を本国政府が下したため」と繰り返したという²⁴⁾。21日、イ・チャンスがスタツケビッチに電話したところ、スタツケビッチは自身に付与された権限でイ・チャンスを観光旅行に誘いビザを発給したが、本国政府から不可能だとの指示があったためビザを取り消さざるを得なかったと述べた²⁵⁾。韓国政府はスタツケビッチの提案を契機としてイ・チャンスのソ連旅行を慎重に推進していたが²⁶⁾、韓国外交官のソ連旅行計画を、ソ連政府が認めることはなかったのである。

このように、第三国において韓ソ外交官接触が持続する中、既述したとおり、6月23日に、朴正熙は「平和統一外交政策に関する特別声明(6.23宣言)」を発表するのであった。韓国政府は、この6.23宣言を「武器」としてさらにソ連側に攻勢をかけた。例えば外務部では、駐スウェーデン大使代理に、特別声明の第6項にて「理念と体制の異なる国家とも互惠平等の原則の下、関係を改善する用意がある」と言及した点をソ連側に想起させ、ソ連も韓国に対して通商および文化関係を含むさらなる「門戸開放」を行うことを促すよう指示した²⁷⁾。スタツ

24) 「駐スウェーデン大使代理発外務部長官宛電文」、1973.4.19、韓国外交文書フィルム番号 C-0062 ファイル番号3 『Statskevich, Nikolai 駐スウェーデンソ連参事官を通じた韓・ソ連関係改善, 1973』フレーム番号51。

25) 「駐スウェーデン大使代理発外務部長官宛電文」、1973.4.22、韓国外交文書フィルム番号 C-0062 ファイル番号3 『Statskevich, Nikolai 駐スウェーデンソ連参事官を通じた韓・ソ連関係改善, 1973』フレーム番号54。

26) 韓国外交官のソ連訪問はフランスでも試みられていた。ソ連外交官のソ連観光ビザ発給を周旋するという発言を機に、ソ連側の発言の真意を探るという目的で、在仏韓国大使館のキム・ムンギョン書記官の観光ビザによる訪ソが進められていた。韓国外交文書フィルム番号C-0062 ファイル番号2 『韓・ソ連関係改善のための外交官接触, 1973』フレーム番号66-69。

27) 「外務部長官発駐スウェーデン大使代理宛電文」、1973.6.29、韓国外交文書フィルム番号 C-0062 ファイル番号3 『Statskevich, Nikolai 駐スウェーデンソ連参事官を通じた韓・ソ連関係改善, 1973』フレーム番号79。

ケビッチは、6.23宣言について、これを前進的であり肯定的であると評価し国際世論もいよいよよだと述べた²⁸⁾。このようにスタッケビッチが6.23宣言を肯定的に評価したという事実によって、金溶植韓国外務部長官はアメリカのロジャーズ国務長官に対して「ソ連をはじめ東欧国家は正面からは反対しない態度をみせている²⁹⁾」と述べることができたといえるだろう。

これまでみてきたように、73年において、韓ソ関係が韓国外交官のソ連訪問という段階にまで進展することはなかったが、第三国では韓ソ外交官の間での接触が維持されていたのである。韓国外務部にとって第三国における韓ソ外交官の持続的な接触は、韓ソ関係改善のための雰囲気醸成し、公式関係が樹立されるまで、常設「連絡事務所」の機能を発揮させることにその目的があった³⁰⁾。

Ⅲ 友好国を通じた関係改善の意思表示

さらに韓国外務部は、6.23宣言発表以降、共産圏諸国との関係改善推進方案の一つとして、「友邦国および共産圏使節の活用」を考えていた。

実際に韓国政府は、第三国を通じてソ連に韓国承認を働きかけた。74年に入ると、オランダのヴァン・デル・ストール (Max van der Stoel) 外相に、ソ連のグロムイコ (A. A. Gromyko) 外相との会談時に、韓国承認問題を取り上げてくれることを依頼した。このような韓国側の要請を受けたヴァン・デル・ストールは、アジアに関して中国やインドシナの問題を取り上げるのではなく、韓国承認問題を取り上げたのである³¹⁾。ヴァン・デル・ストールによれば、このような提案はグロムイコに深い印象を与えたという³²⁾。

28) 「駐スウェーデン大使代理発外務部長官宛電文」、1973.7.5、韓国外交文書フィルム番号C-0062ファイル番号3『Statskevich, Nikolai 駐スウェーデンソ連参事官を通じた韓・ソ連関係改善, 1973』フレーム番号80。

29) 「外務部長官発大統領宛報告」、1973.7.18、韓国外交文書フィルム番号C-0068ファイル番号6『Rogers, William P. 米国国務長官訪韓, 1973.7.18-20』フレーム番号64。

30) 「東欧諸国とのContact Point 開設」、1973.5.3、韓国外交文書フィルム番号E-0011ファイル番号5『東欧圏とのContact Point 開設, 1973』フレーム番号6。

31) 「駐オランダ大使発外務部長官宛電文」、1974.5.6、韓国外交文書フィルム番号Re-0022ファイル番号46『ソ連の対韓政策及び友邦国を通じた韓・ソ連関係改善, 1973-74』フレーム番号23。

また、韓国外務部はインドネシア駐在韓国大使に対して、マリク (Adam Malik) インドネシア外相が、韓国の対ソ関係改善意思をソ連側に伝達してくれることを、インドネシア側に要請するよう訓令した。韓国側は、韓国が対共産圏門戸開放政策によってソ連を含む東欧圏との関係改善を希望しており、万一ソ連がその国際環境によって政治面における即時的な対韓関係改善が困難であるなら、非政治的な分野からでも関係改善を図るという意味がソ連側に伝達されることを望んだ³³⁾。

さらに西ドイツ韓国大使館は、グロムイコの訪独による独ソ外相会談において、韓国側の対ソ関係改善意欲が議題とされることを西ドイツ外務省に要請した³⁴⁾。韓国外務部は、グロムイコの訪独機会に、文化等非政治交流でも優先して推進しようとする韓国政府の立場を独ソ間の交渉で西ドイツ政府が代弁し、さらに西ドイツ側がこの問題に対するソ連の反応を確認することを望んだのである³⁵⁾。

IV おわりに

これまで、第三国での外交官接触を中心に70年代前半における韓国の対ソ関係改善の試みについて概観してきたが、その接近策にはどのような特徴があったのだろうか。第一に指摘できることは、韓国政府の対ソ接近策は中央情報部の監督の下に進められていたことである。イ・チャンスのソ連旅行計画に関して、中央情報部は、中央情報部現地派遣官との緊密な協力の下に、イ・チャンスのソ連

32) 「駐オランダ大使発外務部長官宛電文」、1974.5.28、韓国外交文書フィルム番号 Re-0022 ファイル番号 46 『ソ連の対韓政策及び友邦国を通じた韓・ソ連関係改善, 1973-74』フレーム番号 32。

33) 「外務部長官発インドネシア大使宛電文」、1974.5.22、韓国外交文書フィルム番号 Re-0022 ファイル番号 46 『ソ連の対韓政策及び友邦国を通じた韓・ソ連関係改善, 1973-74』フレーム番号 31。

34) 「駐独大使発外務部長官宛電文」、1974.9.14、韓国外交文書フィルム番号 Re-0022 ファイル番号 46 『ソ連の対韓政策及び友邦国を通じた韓・ソ連関係改善, 1973-74』フレーム番号 43。

35) 「外務部長官発駐独大使宛電文」、1974.9.11、韓国外交文書フィルム番号 Re-0022 ファイル番号 46 『ソ連の対韓政策及び友邦国を通じた韓・ソ連関係改善, 1973-74』フレーム番号 42。

旅行を積極的に推進することを外務部に求めた。具体的には、イ・チャンスのソ連旅行が実現した場合、イ・チャンスが一旦スウェーデンに帰還し、ソ連旅行の状況を中央情報部派遣官に説明することを求めた。このように中央情報部が現地で緊密な事前協力が成されるよう外務部側に要請した根拠は、共産圏諸国に關係する件は、大統領令第6309号に基づく中央情報部の監督対象となる事項であり、外交活動職務遂行基本指針にも現地中央情報部派遣官と緊密に協力するように規定されているからであった³⁶⁾。

第二に、韓国の対ソ接近は、ソ連側を刺激することのないよう慎重に進められていた点である。イ・チャンスのソ連旅行に関して、韓国外務部では、この旅行がソ連当局の保障の下に行われるという事実を文書化する可能性を探っていた³⁷⁾。しかしながら現地の在スウェーデン韓国大使館では、旅行自体がソ連側の招請によるものではなく単純な勧誘に韓国側が積極的に推進したものであるため、書面による身辺の安全保障を要求するほどの理由が希薄であると捉えていた。さらに、書面による保障を要求する場合、そのような保障要求にソ連側が応じるのかどうか疑問であるとともに、むしろこのような要求を悪意として受けとられることで、スタツケビッチとの関係も悪化する恐れがあると判断していた。したがってスタツケビッチの発言を信用して旅行するか、旅行自体を取り消したほうがよいと本国に具申した³⁸⁾。本国外務部でも、在スウェーデン韓国大使館の意見を受け入れ、文書による保障を断念した³⁹⁾。

第三に、韓国政府は関係改善の意思を示し続けることによる中長期的な効果を

36) 「中央情報部長発外務部長官宛通知」、1973.4.19、韓国外交文書フィルム番号C-0062ファイル番号3『Statskevich, Nikolai 駐スウェーデンソ連参事官を通じた韓・ソ連関係改善, 1973』フレーム番号40。

37) 「外務部長官発駐スウェーデン大使代宛電文」、1973.4.19、韓国外交文書フィルム番号C-0062ファイル番号3『Statskevich, Nikolai 駐スウェーデンソ連参事官を通じた韓・ソ連関係改善, 1973』フレーム番号39。

38) 「駐スウェーデン大使代理発外務部長官宛電文」、1973.4.18、韓国外交文書フィルム番号C-0062ファイル番号3『Statskevich, Nikolai 駐スウェーデンソ連参事官を通じた韓・ソ連関係改善, 1973』フレーム番号38。

39) 「外務部長官発駐スウェーデン大使代宛電文」、1973.4.19、韓国外交文書フィルム番号C-0062ファイル番号3『Statskevich, Nikolai 駐スウェーデンソ連参事官を通じた韓・ソ連関係改善, 1973』フレーム番号39。

期待していたことである。韓国政府は、対共産圏関係改善の意思を「友邦国」に伝えることで「友邦国」との結束を強化するとともに共産圏との関係改善も推進できるという理由から「友邦国および共産圏使節の活用」を推進したが、この方案に関しては、共産圏からの即時的な反応を期待するのではなく、繰り返すことによる中長期的な成果を期待していた⁴⁰⁾。

第四に、経済、文化、言論、スポーツなどの非政治的分野における関係拡大を目指していた点である。その意味で、73年8月15日にモスクワで開かれた第7回夏季ユニバーシアード大会に韓国選手団が参加したことは、韓国の対ソ接近策における一つの成果であった⁴¹⁾。

以上のような特徴を、70年代前半の韓国政府によるソ連接近策に見出すことができる。しかしながら、70年代前半の韓国側の対ソ接近策は、ソ連による韓国承認という果実を手にするには至らなかった。

一方、ソ連の対韓接近態度にはどのような特徴があったのだろうか。第一に、ソ連は韓国との関係において基本的には受動的な姿勢に終始した。例えば在スウェーデン韓国大使館では、通商問題の協議に関するソ連側の対韓態度を受動的なものとして捉えていた。韓国大使館は、ソ連側は、通商関係に関する韓国側の書面提案を受けてから韓国政府の立場および意向を把握し、国際情勢の推移に応じて適切だと思われる時期に段階的に反応をみせようとする立場に立っているとの印象をもっていた⁴²⁾。

第二に、ソ連は、韓ソ二国間における人的交流の進展よりも、国際的な会議やスポーツ行事を利用して交流を増大させることを韓国側に勧めた。スタツケビッチは、韓国とソ連の言論関係者の相互往来を提案する韓国側に対して、ソ連において開催される国際会議に韓国側が出席することを勧めた。それは、このような場合のビザ発給はソ連政府の直接介入が排除されるため、容易であるからであっ

40) 「対共産圏関係改善方案」、1973.11.29、韓国外交文書フィルム番号E-0011ファイル番号4『対ソ連及び東欧圏関係改善方案, 1973』フレーム番号84。

41) 一方、北朝鮮は同大会への参加を拒否した。

42) 「駐スウェーデン大使発外務部長官宛電文」、1973.2.21、韓国外交文書フィルム番号C-0062ファイル番号3『Statskevich, Nikolai 駐スウェーデンソ連参事官を通じた韓・ソ連関係改善, 1973』フレーム番号5-6。

た⁴³⁾。

第三に、上述の二点に関連する要因として、北朝鮮との関係への配慮という点を指摘できる。北朝鮮は韓国とソ連の接近に反対していた。例えば、韓国側が在インドソ連大使館の情報任務担当者だと想定していたティトフ (Sergei Titov) の情報提供によれば、北朝鮮側は、韓国によるソ連および東欧共産諸国との関係改善を阻止するための活動を強化しており、ソ連に対して「北朝鮮が韓国と対話している間には、この対話に支障を与えないよう、南当局との全ての接触を禁止してほしい」と要請していたという⁴⁴⁾。

第四に、ソ連の韓国接近の背後には中国への警戒という側面があった。ピシュギンは、「韓国とは異なり、北朝鮮は最近中国という外勢の影響を大きく受けており、この事実が北朝鮮の自主的な立場を損なわないかとても心配だ。北朝鮮の態度が、頑固で理解しがたい中国にとっても似ていつている」と述べ、北朝鮮に対する中国の影響力を憂慮していた⁴⁵⁾。さらに、ピシュギンは、「中国は東北アジアにおいて真正な平和と安全の維持よりも自国の利益だけに立脚した勢力拡張にだけ執念しているようで、米国との提携、日本との国交正常化など一連の節操のない外交的遊戯ばかりを続けている。私としては、遠からず韓国との外交関係樹立も提議してくる可能性があると考える」と述べて、韓中外交関係樹立の可能性をも警戒していた⁴⁶⁾。

以上のような特徴をもつ韓ソ双方の相互接近策であったが、韓ソ関係は70年代前半に急展開することはなかった。その要因の一つとして、韓ソ双方とも、朝鮮半島の「均衡」維持に敏感であったことを指摘できよう。スウェーデンにおけ

43) 「駐スウェーデン大使代理発外務部長官宛電文」、1973.5.15、韓国外交文書フィルム番号 C-0062 ファイル番号3 『Statskevich, Nikolai 駐スウェーデンソ連参事官を通じた韓・ソ連関係改善, 1973』 フレーム番号64-65。

44) 「駐ニューデリー総領事発外務部長官宛電文」、1973.7.17、韓国外交文書フィルム番号 C-0062 ファイル番号2 『韓・ソ連関係改善のための外交官接触, 1973』 フレーム番号84。

45) 「駐伊大使発外務部長官宛電文」、1973.2.28、韓国外交文書フィルム番号 C-0062 ファイル番号2 『韓・ソ連関係改善のための外交官接触, 1973』 フレーム番号38。

46) 「駐伊大使発外務部長官宛電文」、1973.3.30、韓国外交文書フィルム番号 C-0062 ファイル番号2 『韓・ソ連関係改善のための外交官接触, 1973』 フレーム番号51。

る韓ソ外交官の対話は、そのことを象徴的に示している。韓国側が南北対話は朝鮮半島を支配する微妙な「均衡」関係を基礎としていると述べたのに対し、ソ連側はそのような「均衡」を崩す恐れがあるためソ連は韓ソ接近に注意せざるを得ないと述べた。そしてソ連側は、ソ連も韓国側の反応を25年間待ってきたのだから、韓国も「今後もアジア人の忍耐力を持って待つことを望む」と述べて、韓ソ間の接触が継続されることを望んだ。このソ連側の見解に、韓国側も同意したのであった⁴⁷⁾。

分断国家の一方として北朝鮮と対峙してきた韓国政府は、北朝鮮による脅威の度を相対的に減少させる必要性からソ連への接近を試みた。しかしながら、韓ソともに「均衡」維持を追求したことに象徴的なように、朝鮮半島の分断状況それ自体が、70年代の韓ソ関係進展を制約していたのである。

【付記】本稿の執筆にあたり、一橋大学21世紀COEプログラム「ヨーロッパの革新的研究拠点—衝突と和解」における若手研究者による自発的研究活動経費の助成を受けた。

47) 「駐スウェーデン大使代理発外務部長官宛電文」、1973.5.15、韓国外交文書フィルム番号 C-0062 ファイル番号3 『Statskevich, Nikolai 駐スウェーデンソ連参事官を通じた韓・ソ連関係改善, 1973』 フレーム番号63-66。